

Kansai University Psychological Research

関西大学心理学研究

関西大学心理学研究

第4号 2013年3月

第4号

Masashi KUSHIZAKI (*Faculty of Letters, Kansai University*)
Toshihiko AMEMIYA (*Faculty of Sociology, Kansai University*)
Tatsuya OKAMURA (*Faculty of Human Science, Bunkyo University*)
Takao KOBAYASHI (*Faculty of Human Science, Bunkyo University*)
Satoshi F. NAKASHIMA (*Graduate School of Education, Kyoto University*)
Hirokata FUKUSHIMA (*Faculty of Sociology, Kansai University*)
Genji SUGAMURA (*Faculty of Letters, Kansai University*)
Rikuko SEKIGUCHI (*Faculty of Sociology, Kansai University*)
 Is Empathy Possible?: An Overview of Empathy Symposium 2012,
 Kansai University 1

Hideya KITAMURA (*Faculty of Sociology, Kansai University*)
 Effects of expression style of persuasive messages on attitudes:
 Studies using TV shopping program and blog 25

Kazuaki SHIMIZU (*Faculty of Sociology, Kansai University*)
Norihiro MIHO (*Faculty of Economics, Kyoto Gakuen University*)
Rie YAMAMOTO (*Job Stress Research Laboratory (Non-Profit Organization)*)
 Extension the Common Factor Space to New Variables or
 Variables included in Parcels: A Comparison among Estimates
 by Factor Score Method and Gorsuch's Method 33

串崎真志・雨宮俊彦・岡村達也・小林孝雄
中嶋智史・福島宏器・菅村玄二・関口理久子
 共感は可能か？
 — 関西大学大学院心理学研究科シンポジウム概括 — 1

北村英哉
 説得メッセージの表現モードが説得効果に及ぼす影響
 — テレビショッピングとブログを用いた検討 — 25

清水和秋・三保紀裕・山本理恵
 共通因子空間を新しい変数あるいは小包に含まれた変数へ延長
 — 因子得点と Gorsuch (1997) の方法 — 33

関西大学大学院心理学研究科

編集委員会

雨宮俊彦* 比留間太白 池内裕美 (*編集委員長)

編集規程

1. 本誌は、関西大学心理学研究科の機関誌として、年1回発行する。
2. 本誌の編集は、関西大学心理学研究科内にある編集委員会の責任のもとに行われる。
3. 本誌は、原則として関西大学心理学研究科に所属する教員ならびに教員と連名の研究者の論文の掲載にあてる。ただし、第一著者となれるのは、原則として関西大学心理学研究科に所属する教員、大学院生、および研究生に限る。
4. 論文は未公開のものに限る。ただし、学会や研究会等での発表（口頭、ポスター、講演等）は除く。
5. 論文は、編集委員によって審査され、その掲載の可否が決定される。
6. 論文の原稿の長さは、表題、要約、図表・注・文献を含め、原則として、日本語論文は刷り上がり10ページ以内、英語論文は6500語以内とする。
7. 論文の構成および表記は、日本心理学会編「執筆・投稿の手びき2005年改訂版」に準拠したものとする。
8. 論文の印刷に関し、特に費用を要するものは執筆者の負担とする。
9. 執筆者（第一著者）に対しては、抜刷20部を贈呈する。それ以上は執筆者の負担とする。
10. 本誌に掲載された論文の著作権は関西大学心理学研究科に帰属する。ただし、内容についての責任は著者が負う。